



Blancpain GT World Challenge Asia 2019

Rd.11&12 Shanghai International Circuit / China

26-28.Sep.2019

Photo by HubAuto Corsa

【HubAuto Corsa チーム体制】

チーム : HubAuto Corsa

マシン : Ferrari 488 GT3

カー No. : 27

クラス : GT3 Silver

チーム代表 : モーリス・チェン (Morris Chen)

Aドライバー : 坂本 祐也 (Yuya Sakamoto)

Bドライバー : マルコス・ゴメス (Marcos Gomes)



Qualifying Rd.11 / 3rd (2:06.573 Y.Sakamoto) Rd.12 / 10th (2:05.940 M.Gomes)

ブランパン GT ワールドチャレンジアジアシリーズは早くも最終戦を迎えました。最終戦の舞台は中国、上海インターナショナルサーキット。ここは6月にフェラーリチャレンジドライバーのコーチで数周走っており、また今回のレースに向けてシミュレーターを使って事前の準備を進めてきました。今回も前戦と同様、ブラジリアンドライバーのマルコス・ゴメス選手とタッグを組みます。最終ラウンドは木曜のフリー走行が1時間1本。金曜のフリー走行が1時間1本といつもとは違うスケジュールとなりました。最初の走り出しからグリップが少なく、オーバーステアに悩まされながら1回目は15位、若干のセット変更を加え臨んだ2回目でしたが12位でフリー走行を終えました。根本的なグリップ不足は変わらず、オーバーステアを解消出来ずにいました。そこでドライバーコメント、走行マシンデータを元に予選に向けてのセットアップを大幅に変更。迎えた予選1回目は坂本がアタックを担当し、変更したセットアップ吉と出て、2:06.573の3位。予選2回目はマルコスのアタックで、セクター1、セクター2とベストタイムを繋いでいましたが、セクター3で前車に詰まってしまい、セクターベストを繋げられず、10位というポジションでセッションを終えました。走り出しではあまりのグリップの低さに一時はどうなるかと思いましたが、大幅なセットアップ変更のお陰でFerrari 488GT3本来のパフォーマンスを取り戻す事ができました。迅速に判断、行動してくれたエンジニア、メカニックに感謝です。



RACE Rd.11 / 2nd (Silver Class 2nd)

金曜、第11戦決勝は予選をアタックした坂本がスタートドライバーを務めます。前戦の韓国戦とは打って変わり、気温は26℃前後、路面温度は30℃を下回り、適した環境の中でレースをする事が出来ました。3番グリッドから今回も絶妙なスタートを決め、右の1コーナーで2位のマシンに並びかけるも、続く2コーナーは左コーナーとなるためパスするには至らず、ポジションキープのままオープニングラップを終えます。序盤は1位から3位までのトップ3の戦いとなりましたが、徐々にトップのマシンが逃げ始めます。2位のマシンに蓋をされる形となりますが、前を行くポルシェはストレートが速く、オーバーテイクを仕掛けるまでには届きません。アンダーカットを狙い、12周目にいち早くピットに入る予定でしたが前を行くポルシェがピットに向かったため、作戦を変更し翌週にピットイン。タイヤをNewに交換。ドライバーを坂本からマルコスに代わり後半戦に勝負をかけます。マルコスは7秒台を連発し、17周目、遂にポルシェを捕らえ2位に浮上。トップを走るアウディを追いかけますが、レース序盤につけられてしまった差を取り戻す事が出来ず、トップから3秒差まで追い詰めたところでチェッカーとなりました。

目標だった優勝にはまた1歩届かず、今シーズン3回目となる2位表彰台となりました。翌日 Rd.12は、サクセス・ペナルティ・ピットストップ10秒ハンデがありますが、その中でしっかり走り切り、大量ポイントを獲得して、逆転チャンピオンを狙ってきたいと思います。



RACE Rd.12/Not Classified

10番グリッドからのスタートとなったマルコス、スタート直後の1コーナーでの混乱をうまく交わしたものの、軽くヒットされコース外に弾き出されてしまいます。何とかコース上に戻り、ポジションをキープし前車を追います。中盤まで続きます。突破口を見出すため、このレースでも早めのピットインをチームが決断。12周目に素早くピットイン。マルコスから坂本にドライバー交代し、タイヤは前日にNEWタイヤを使ってしまったため、予選でのUSEDタイヤを装着。前日の2位に伴う、サクセス・ペナルティ・ピットストップ10秒も消化し、いざコースへ。とエアジャッキを降ろした瞬間、後方のエアジャッキがスタックしたまま降りず。メカニックが再度ジャッキアップし、降ろすのを試みるもスタックしたままの後方エアジャッキは無情にも上がったまま。これでは再スタートも出来ず、一旦ピットガレージに戻されます。メカニック達の必死の作業。コックピットで待つ時間はとても長く感じました。リアのエアジャッキ本体を取り外して、コースに復帰。この時点でトップから10周遅れの走行。それでも必死に走り、最後まで集中してチェッカーを目指しました。20位でのチェッカーフラッグ。チェッカー後、エンジニアからの「So sorry」の無線がとても悲しく、無情な結果だった事を物語ります。ノーポイントに終わったため、結果シリーズランキングは4位にドロップ。タラレバですがノートラブルで走っていたらランキング2位は見えていました。でもこれがモーターレーシング。現実を受け入れ、次に繋げて行くしかありません。

今シーズンは表彰台の常連となり、最後までシリーズチャンピオン争いをさせてくれたチーム HubAuto Corsa には感謝の言葉しか見当たりません。そしてサポートいただきました、パーソナルスポンサー各位、ファンの皆様、強力なサポートをありがとうございました。そしてとてもコンペティションなシリーズを用意してくれたブランパン GT ワールドチャレンジアジアを主催する SRO に感謝したいと思います。ありがとうございました。

